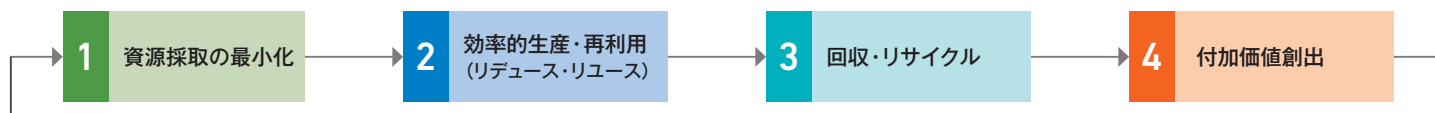


循環経済への対応

当社グループは、産廃リサイクル率の維持・向上を目標として、これまで3R (Reduce、Reuse、Recycle) 活動をはじめ、事業活動に伴う廃棄物の発生抑制や再利用、再資源化など、資源循環に継続して取り組んできました。

近年、地政学リスクの顕在化や世界的な資源需要の増加など、資源を取り巻く環境が大きく変化する中、資源の安定確保は重要な課題となっています。こうした中、循環経済(CE)への移行は、環境負荷の低減にとどまらず、経済安全保障・資源安全保障の強化や産業競争力の向上にもつながるものとして、その意義が広がっています。

循環経済の概念図



原子力

原子燃料サイクルによる資源の有効利用

1 2 3 4

使用済燃料を再処理し、回収したウランやプルトニウムを再び燃料として利用する「原子燃料サイクル」を推進することで、限りある資源の有効利用と高レベル放射性廃棄物の減容化・有害度低減に取り組んでいます。

原子力

クリアランス金属の用途開発

1 3 4

原子力発電所の運転・補修、解体時に発生するクリアランス金属(放射能が極めて低く再利用が可能な物)を用いて、ベンチ等にリサイクルしています。



ソリューション

使用済太陽光パネルのリユース・リサイクル

1 2 3 4

当社は、TREホールディングス(株)および(株)トクヤマと連携し、使用済太陽光パネルの水平リサイクルを軸とした事業モデルの構築を検討し、高度な資源循環システムの実現を目指します。



ボンデテック

使用済みPCの価値保持

1 2 3 4

(株)ボンデテックは「社会に埋もれた価値を再起動する」をビジョンに、使用済みPC・スマートフォン等の再生・リユース事業を展開しています(累計約15.6万台、2026年3月末現在)。



発電・送配電・情報通信設備等に多くの資源を必要とする当社グループにとって、設備の長寿命化や再利用・再資源化等を通じて一次資源への依存を低減し、資源の安定確保と調達リスクへの耐性を高めることは、事業の持続性と競争力を支えるうえで重要です。こうした認識のもと、これまでの資源循環の取組みをさらに発展させ、資源面から事業基盤を支えるとともに、資源の有効活用や新たな価値の創出を通じて、事業の持続性と競争力の向上、さらには社会全体の循環経済の実現に貢献していきます。

グラングリーン大阪における取組み(ZC・NP・CE)

当社グループは環境課題を統合的に捉えた取組みを推進しています。グラングリーン大阪の開発計画段階からエネルギー利活用モデルの構築に関わり、まちびらき後はユーティリティサービスとエリアエネルギーマネジメントを通じて、帯水層蓄熱、下水熱、地中熱、バイオガス発電、小型バイオディーゼル発電等*を連携・最適運用しています。都市に存在する未利用熱や廃棄物を地域のエネルギー資源として活用しています。

※設備は、(株)関電エネルギーソリューションがユーティリティサービスとしてご提供しています。

帯水層蓄熱

1 3 4

帯水層蓄熱は、地下水から熱のみを取り出し、季節をまたいで冷暖房に活用する仕組みです。地下水を同一帯水層へ全量戻すことで地盤沈下を回避し、省CO₂とヒートアイランド現象の抑制に貢献しています。

